

82 ウミスズメ

(チドリ目)

Synthliboramphus antiquus

兵庫県ランク:要調査

繁殖個体群:無 越冬個体群:調 通過個体群:調

環境省ランク:CR(絶滅危惧 I A類)

種の概要

北海道周辺の島嶼で繁殖する。冬はやや南下して越冬するが、繁殖地周辺には周年生息している。本州、四国、九州では冬鳥。兵庫県では主に11-翌3月に見られる。普段は沖合いの海上に生息するが、厳冬期には内湾や港などにも飛来する。潜水して魚類や甲殻類を捕食する。



写真提供: 出口敦司

国内分布

北海道、天売島、友知島、ハボマイモシリ島、南千島、本州、三貫島、粟島、佐渡、舢倉島、見島、四国、九州、対馬、屋久島、伊豆諸島、硫黄列島、奄美大島、先島諸島

県内分布 ()表記の市町では2002年以前に生息確認

神戸市、(明石市)、(西宮市)、洲本市、豊岡市、(加古川市)、南あわじ市、淡路市



主要な選定理由

影響の人為性				生態の脆弱性(特殊性)			学術上の希少性		
個体数激減	分布域激減	餌の可用性の低下	特殊競争圧	特殊捕食圧	特殊繁殖環境	特殊採餌環境	ねぐら休息環境・	局地的繁殖	希少

県内における生息状況およびその他特記事項

「今見られない」ランクから要調査に変更。
かつては瀬戸内側で数羽から数10羽の群れが越冬しており、明石市二見沖では、1952年2月に95羽、1953年2月に50羽群が記録されている。しかし1960年代以降急減し、1970年代には全く姿が見られなくなっていた。近年は2000年に西宮市沖の海上で記録された他、紀淡海峡や鳴門海峡周辺で越冬個体群が確認されているが、その生息状況はあまりわかっていない。

保護上の留意点

県内における分布および生息に関する調査が必要。また、藻場の再生を含め、生息海域の海洋環境の保全が重要。特に重油や化学物質の流出などによる海洋汚染は、その生存に致命的な結果をもたらすため回避する努力が必要。